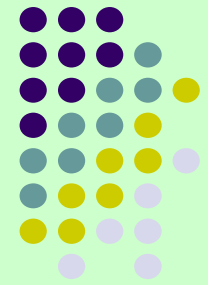


5. 不足問題以外考慮しておくべき食料問題

- ① 重要な食料安全性への配慮：食と農が離れるほどリスク管理が困難になる
- ② 地球温暖化への影響
- ③ 21世紀最大の資源問題とされる水問題への影響
- ④ 自然の富栄養化への影響



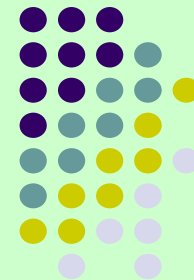
各国のフード・マイレージ

単位：億t・km

	日本	韓国	米国	イギリス	ドイツ	フランス
フード・マイレージ	9,002	3,172	2,958	1,880	1,718	1,044

資料：中田哲也「フード・マイレージ」（2007年9月、日本評論社）、久守藤男「飽食経済のエネルギー分析」（2000年3月、農山漁村文化協会）を基に農林水産省で作成

- 注：1) フード・マイレージについては、例えば、温室栽培で国内生産を行ったほうが海外からの輸送によって輸入を行うよりも二酸化炭素排出量が多くなる場合があるなど、輸送以外の要因も含めて環境負荷の判断を行うべきとの指定（英国環・食料・農村地域省）があること留意する必要がある。
- 2) LCAとは、製品の材料調達段階から廃棄にいたる郭段階におけるエネルギー（燃料）・資源の投入と排出を把握し、製品・サービスの環境への負荷を分析・評価し、負荷の少ない生産への以降を検討する手法



我が国への品目別仮想水の量(2000年)

品目	仮想水の量 (億m ³ / 年)
とうもろこし	145
大豆	121
小麦	94
米	24
大麦・裸麦	20
牛肉	140
豚肉	36
鶏肉	25
牛乳及び乳製品	22
計	627

可食部1kgに対する必要
水量

米 3.6t/kg

小麦 2.0t/kg

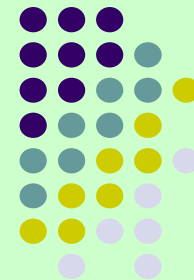
鶏肉 4.5t/kg

豚肉 6.0t/kg

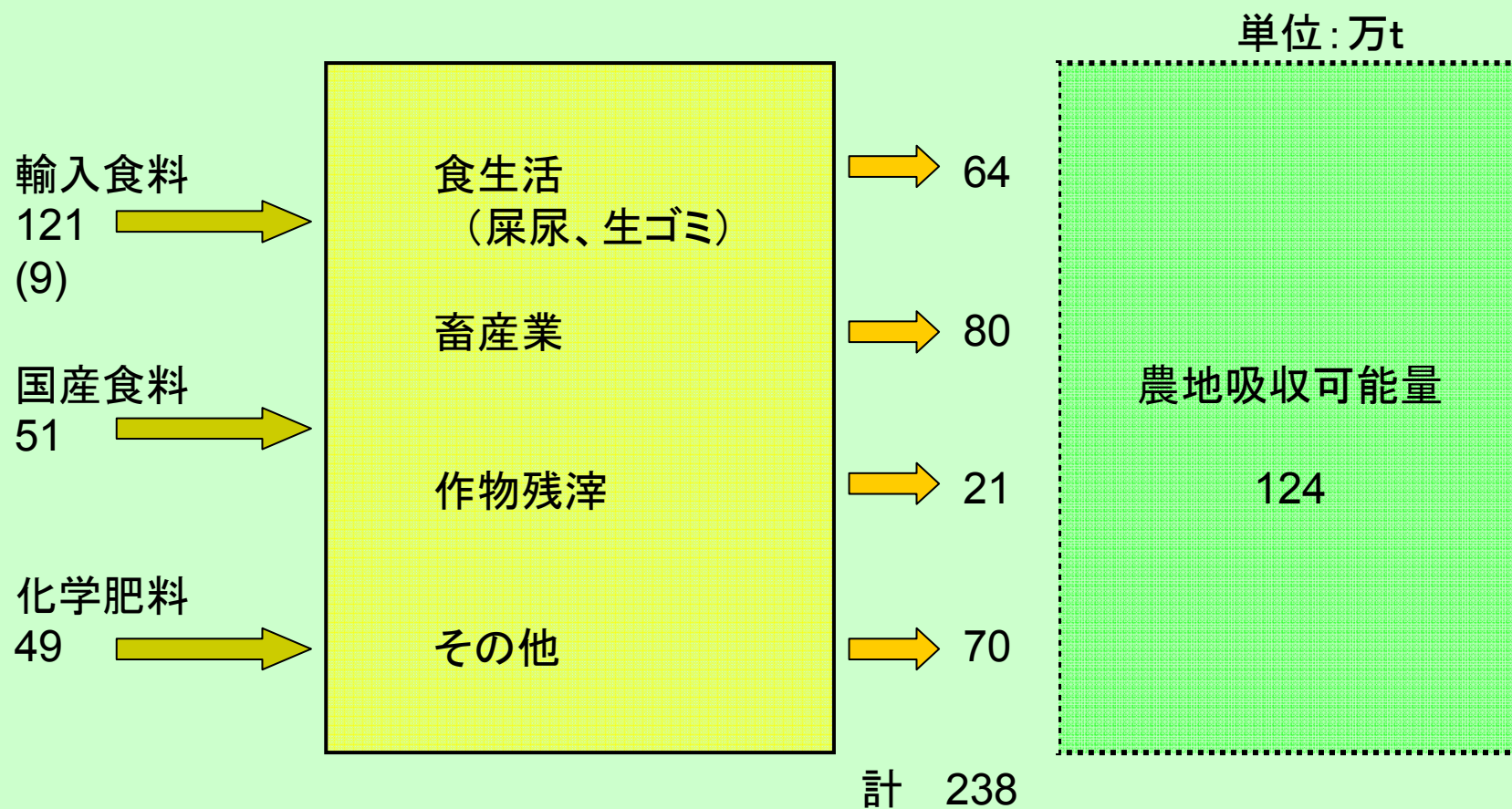
牛肉 21.0t/kg

資料：東京大学生産技術研究所の沖大幹教授等のグループによる試算

注：輸入仮想水の割合は、食材に占める輸入割合（自給率は2006年度）から算出



食料を巡る窒素循環 環境への放出



織田(2004)による